

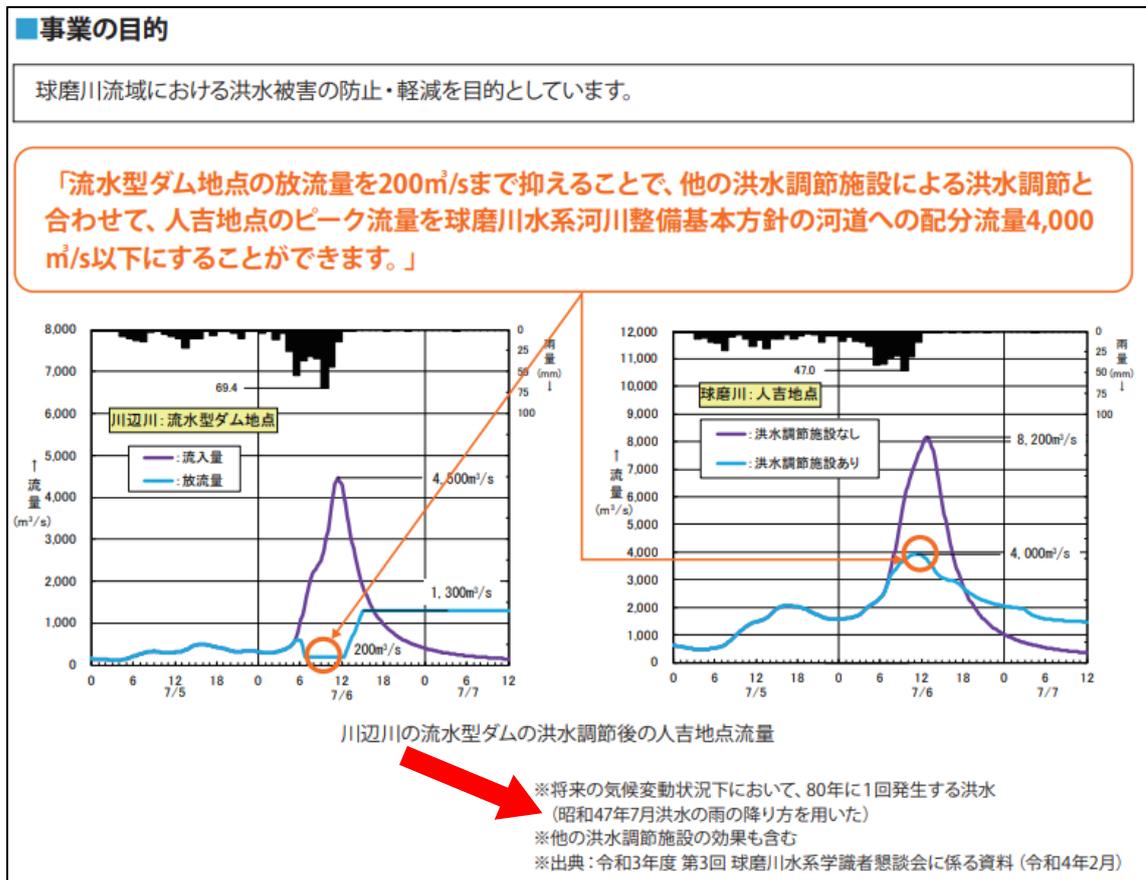
### 公述内容

私は生駒泰成と言います。

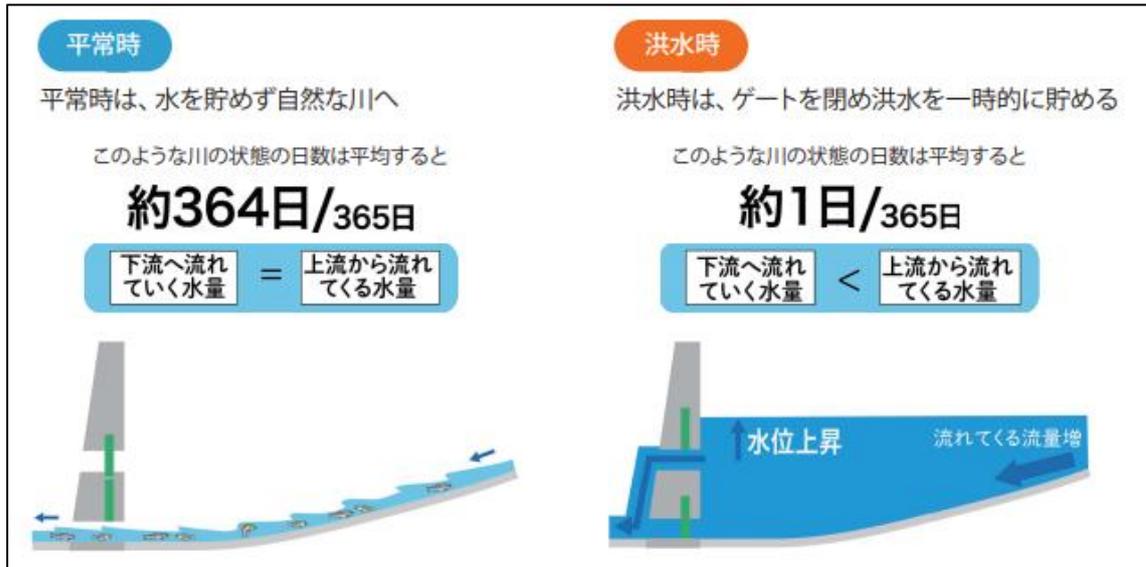
相良村柳瀬地区に住んでおります。職業は会社役員および川漁師をやっております。

本日私は意見を述べるにあたり、公表されている「環境影響評価準備レポートのあらまし」(こちら)。以下文中の図はこの「あらまし」からの切り抜き)に基づいて、主に話をさせていただきます。

最初に思ったのは、3ページに事業の目的について。「球磨川流域における洪水の防止、軽減を目的としている」とあるが、その下にグラフが2つあり、流水型ダム、洪水調整施設があった場合となかった場合のグラフがあります。このグラフを作っている元になっているデータについてです。今回の流水型ダムは令和2年の洪水をきっかけに計画されたものなのに、この3ページで示されている写真は「昭和47年7月の雨の降り方を用いた」とあり、まったくおかしい話ですよ。こういうのを公表されて配られています。



次の4ページ目。図が2つありますが、「平常時は水を貯めず自然な川へ」。このような川の状態の日数を平均すると364日。洪水時はゲートを締めて一時的に水を貯める、これは平均して1年に1日、多くても3日程度と書かれています。こんなことは絶対にあるはずがありません。逆の言い方をすると、365日のうちの1日のために、このような構造物を作る必要が果たしてあるのでしょうか。私は非常に疑問に感じております。



次に5ページ目「環境影響評価に先立っての検討」というところで、「ダム施設と設計の工夫」「ダムサイトで確認された魚類は、すべて移動可能となるように工夫する」とありますが、どんなに工夫しても絶対なるようになるわけないんです。そんなことは流域の人たちは当然みんな分かっていることなのに、こういうふうに書かれています。

■ダムの施設等設計の工夫

ダムサイトで確認された魚類はすべて移動可能となるよう工夫します。

ダムができることにより、生物の移動経路、流砂環境等に対する影響が考えられることから、環境影響の最小化に向けて施設を設計しています。

次の6ページの「試験湛水の手法、方法」。これも「アユや九折瀬洞、植生等の生態系、水質に配慮した方法を検討します」。

■試験湛水手法の工夫

アユや九折瀬洞、植生等の生態系、水質に配慮した方法を検討します。

試験湛水の目的である「ダム堤体・基礎地盤及び洪水調節地内周辺地山の安全性の確認」は、ダム運用上の最高水位まで貯水位を上昇させ、また下降させる過程で綿密な計測・監視を行った上で確認されるものであるため、水位の高い状態が一定期間継続し、環境への影響が大きくなると考えられます。

そのため、試験湛水期間を短くする工夫を行うとともに、生物の生活史に配慮した試験湛水開始時期を設定し、環境影響の軽減を図ります。

※環境影響評価に先立って検討した試験湛水手法であり、環境影響の最小化に向けた手法の検討を引き続き行います。

その下の「洪水調節ルール of 工夫」。これも「ダム貯水池内の貯水時間や湛水頻度を抑えると共に、ダム貯水池内ではアユの飼料源となる付着藻類の良好な生息環境が確保できるように工夫します」。このように工夫します、検討しますと言葉を濁し、とりあえずレポートを作って帳面消しとしていこう、このような考えの下にやっているのかなと私は非常に感じます。

**■洪水調節操作ルールの工夫**

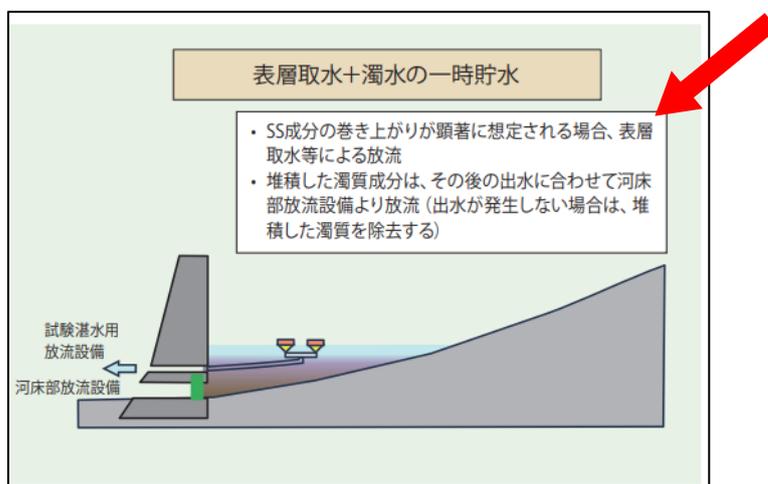
ダム洪水調節地内の貯水時間や冠水頻度を抑えるとともに、ダム下流域では、アユの餌資源となる付着藻類の良好な生育環境が確保できるよう工夫します。

洪水調節により、一定規模を超える出水時にダム地点で河川の水を一時的に貯めることにより、ダム洪水調節地内及びダム下流域の環境影響が発生すると考えられるため、

- ・ダム洪水調節地内においては、貯水に伴う上昇量を極力抑える
- ・ダム下流においては、河川生態系に必要な流量変動による攪乱を確保する

ことを目標に、自然の流況にできる限り近づけるため、安全を確認した上で後期放流量を増やすという洪水調節操作ルールの工夫を行います。

13 ページに「試験湛水」のことがあるが、工事の実施で4つの図があるが、右の一番下。表層取水プラス濁水の一時貯水」の箇所。「SS 成分の巻き上がりが顕著に想定される場合、表層取水等による放流。体積した濁室成分は、その後の出水に合わせて河床部放流設備より放流（出水が発生しない場合は、堆積した濁質を除去する）」となっています。

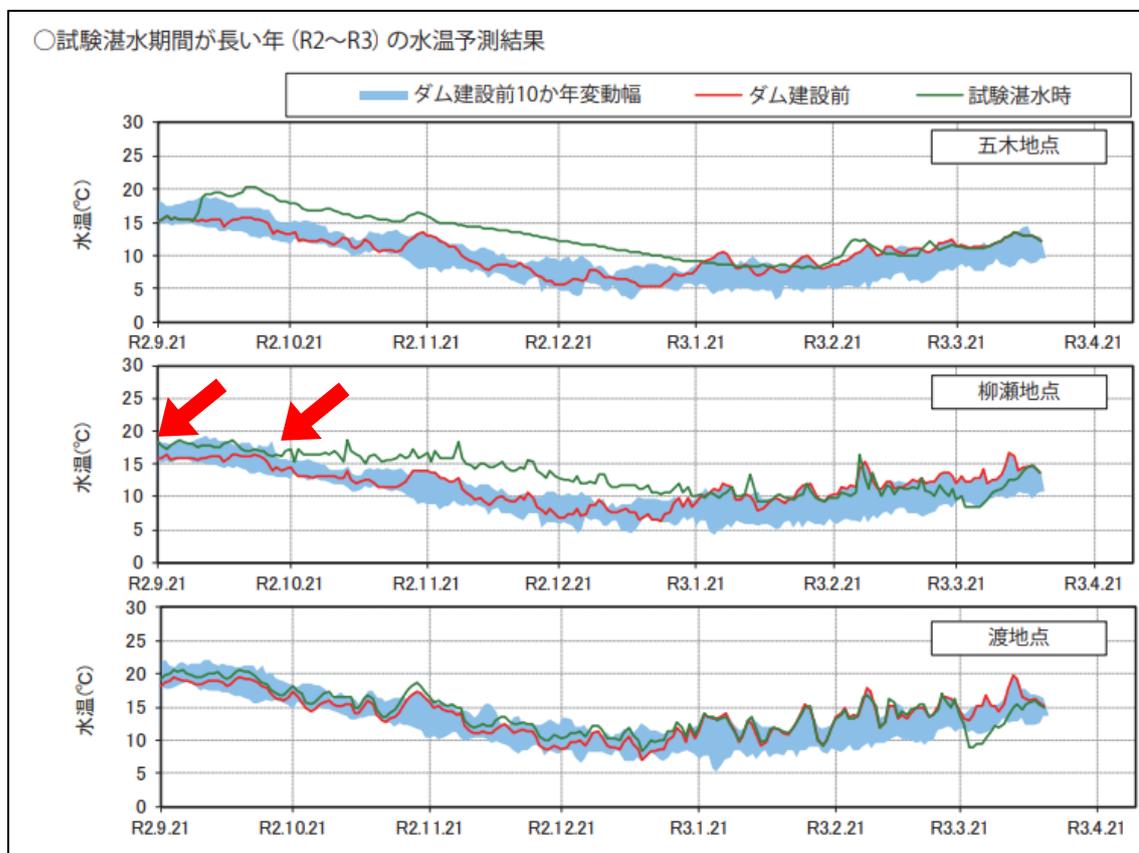


つまり、貯留して濁りが発生したら、上のきれいな水をまず流して、最後の方で後の出水に合わせて川底に溜まっている泥を流す、という話です。ということは、水流が減ってから泥を流す。それだと、濁りは、普通の自然の状況よりも非常に長期化するのとは当然のことだと思います。

それと、水量が減ってから泥水を流すと、今度は余計に川底にシルト分が残

ります。水質はきれいだと書いてありますが、川底の泥の堆積についてはほとんど見ないですね。これが一番問題なんです。現在の川辺川でも水質はきれい、水はきれい。でも川底は泥だらけ。アユとか魚類、水生昆虫の餌になるいい藻類が非常に減り、泥が溜まったことでラン藻類は増えています。私は川漁師もやっていますが、これがアユ漁にとって、ヤマメもですが、非常に悪影響を与えています。なぜなら、川底にシルト分が貯まれば、良いケイ藻類が減ってラン藻類が増えます。だから日頃川辺川でも、濁りがやっと取れてアユが取れ始めたら、1週間後に青のりが流れてきた、もうアユ漁はできない、取れたアユが非常に質が悪い、香りがしない。なぜかというケイ藻類を食べていないから香りがしななんですよ。このように、水質を保ちます、水をきれいにしますと言っても、川底が汚れていたらなんにもならないんですよ。それがこのレポートではまったく評価されていません。

次に14ページのこれも試験湛水の話ですが、下にグラフが3つあり、真ん中の水温のグラフ。この一番左側。9月21日時点、10月21日時点。これはダム建設前と試験湛水時の水温が3度ぐらい高いですね。この時期に水温が3度も高かったら、アユは産卵しません。こういうことを何も分かっていない、考えてもいない、気にもしていない。そういう人たちがこういうレポートを作ったのではなかろうかと私は感じております。



それと18ページの下から2番目。「試験湛水の際、試験湛水期間が短い年においては、一時的に濁りの発生がみられますが、水の濁りは短時間であり、濁りが発生している間、アユは周辺の支流に退避すると考えられます。試験湛水が長い年及び中間の年ではダム建設前と同程度と考えられます。また、水温の上昇もみられますが、試験湛水時の1回に限られることから、長期的には動植物の生息・生育は維持されると考えられます。供用後の大規模な出水時には、ダム建設前と比べ濁りが大きくなりますが、短時間であり、注目種等の生息・生育・繁殖環境の変化は小さいと考えられます。」と記載されています。

今私がしゃべった部分についても、先ほど述べた通りだと思います。

<p>典型性（河川域） 水質の変化</p>	<p>試験湛水の際、試験湛水期間が短い年においては、一時的に濁りの発生がみられますが、水の濁りは短時間であり、濁りが発生している間、アユは周辺の支流に退避すると考えられます。試験湛水が長い年及び中間の年ではダム建設前と同程度と考えられます。 また、水温の上昇もみられますが、試験湛水時の1回に限られることから、長期的には動植物の生息・生育は維持されると考えられます。 供用後の大規模な出水時には、ダム建設前と比べ濁りが大きくなりますが、短時間であり、注目種等の生息・生育・繁殖環境の変化は小さいと考えられます。</p>
---------------------------	---

このレポートの最後のページに、今がステップ6で「準備レポート公告・縦覧」、その下に「住民意見」とありますが、これは帳面消しのために単に作って配っているものだとそのように私は感じております。以上です。

